

国民は原発再稼働や消費税増税などを認めていない

日本共産党議員団が街頭から訴え



日本共産党上越市議員団は、正月早々から市内各地で街頭宣伝を繰り返しています。

師走の総選挙で自民党と公明党の政権が復活しました。安倍内閣はさっそく財界の代表と会い、アメリカ

詣で打診をするなどしながら、TPP推進や原発再稼働・新規建設、憲法改悪などをすすめようとしています。また、消費税増税も、市民の懐が寒い状況の中で強行しようとしています。しかし、各紙の世論調査で明らかのように、有権者が原発再稼働を認めたり、TPP参加、消費税増税を認めているわけではありません。

自民党の「大勝」は民主党の国民への裏切り政治に対する国民の大きな怒りの結果です。また、絶対得票率が比例でわずかに15%、小選挙区で24%という自民党が6割を超える議席を獲得したのは、小選挙区制度の弊害が作り出したもの

です。日本共産党議員団は、こうした政治状況の下で、市民の暮らしを守りぬき、国政とも連動してがんばる決意を街頭から訴え続けています。天候の悪い日もありますが、私たちの声を聞

き、外まで出て下さる方や激励電話をくださる方などの応援を力に頑張り続けています。写真は吉川区の山間部で宣伝する私です。

県の「地域保全型工事」発注制度が全国に紹介されました

9日付けの「しんぶん赤旗」日刊紙に新潟県の「地域保全型工事」発注制度が中小企業の営業と地域経済を守るうえで力を発揮していることが紹介されています。

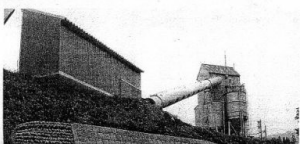
この制度は、県が管理する施設の除雪や安全パトロールなどで実績のある企業をあらかじめ「地域貢献地元企業」として認定し、地域の安

自治体の仕事↓中小企業へ

優先発注が好評

新潟県は、県民生活の安全・安心に貢献する事業として、地域保全型工事の発注制度を創設し、中小企業への発注を促進しています。この制度は、県が管理する施設の除雪や安全パトロールなどで実績のある企業をあらかじめ「地域貢献地元企業」として認定し、地域の安全・安心に貢献する事業として、優先的に発注を行う仕組みです。

新潟 地域保全型工事が5倍に



新潟県は、県民生活の安全・安心に貢献する事業として、地域保全型工事の発注制度を創設し、中小企業への発注を促進しています。この制度は、県が管理する施設の除雪や安全パトロールなどで実績のある企業をあらかじめ「地域貢献地元企業」として認定し、地域の安全・安心に貢献する事業として、優先的に発注を行う仕組みです。

全・安心に係わる工事などを優先発注するものです。特殊な技術を要しない250万円から700万円の工事対象。2011年度決算では、6億1千万円が9億1千万円に増え、発注されています。記事の中で川原区の上越市浦江

組の太田昭治会長の「経営環境が厳しくなる中で助かっていく」というコメントが写真付きで掲載されています。



【ワラビ】正月の街頭宣伝の際にいただいたワラビの漬けもの。太くてやわらかでした。味はもちろん抜群です。吉川区源地区にて、2日。

この制度の発足、充実に貢献してきたのは県内の中小企業団体、新潟県商工団体連合会などですが、日本共産党の竹島良子県議も「県の仕事を中小企業へ優先は注するよう」繰り返し求めてきました。

新春の集いのご案内

恒例の新春の集いを下記の日程で行います。集いでは国政、市政の報告のほか、漫談、落語鑑賞なども予定しています。参加を希望される方は事前に「しんぶん赤旗」配達員や橋爪市議（携帯電話番号は090-5392-1961）までお知らせください。

日時：2月2日（土）午前11時から2時まで。
会場：吉川多目的集会場和室（吉川体育館隣）
会費：1000円

※美味しい飲み物、食べ物の持ち込み大歓迎。
飲酒される人は車で来られないように願います。

橋爪のりかずの
市政レポート

NO 1587
2013.1.13

発行・編集 日本共産党上越市議 橋爪法一
Tel 025-548-3628 (有線) 4867
E-mail hasiznyg@ruby.ocn.ne.jp
URL http://www.hose1.jp/

左記の電話が通じない時、こまった時は橋爪法一の携帯電話へ
090-5392-1961

数日前のこと、「アニキ、こんなのがあったよ」そう言って大潟区在住の弟が私に見せてくれたのはアルバム三冊でした。そのうちの一冊は昨年八月、高校の同級生のところで数十年ぶりに見たものと同じ卒業アルバムです。失くしてしまっただけだと思っただけに、とてもうれしく思いました。

「どこにあったんだ」と訊く前に弟が教えてくれました。「尾神から引越した時に段ボールにつめこんだままになっていたんだね。牛舎の二階にあったよ」と言っただけです。「なーんだ、そんなところにあったのか」と思いながら、とりあえず三冊のアルバムを私の事務所に運び入れました。

そしてその翌日のこと、卒業アルバムを開いてみてびっくりしました。アルバムの最後のページのところに電報、写真とネガ、新潟日報記事、薄いレコード盤がはさまっていたからです。いずれも、今になれば宝のようなものばかり。それらの一部は私の記憶に残っていませんでしたが、アルバムにはさんだのは間違いなく私です。電報や写真は私を一気に四十数年前まで運んでくれました。

電報は一九六八年（昭和四三年）三月一八日のものと翌一九九日のもの二通。一八日のものは、大学受験に合格したことを知らせる電報でした。電文が入った、ほぼ真四角の袋は赤く、七羽の鶴が飛んでいる図柄が入っています。電報は大学受験の際、受験会場で私が頼んでおいたものです。不合格なら別の袋になったのでしょうか。当時住んでいた尾神の家でこの電報を受け取った私は、すぐに父のもとに走り出しました。この日、父は下町の豊田材木店さん（当時）に頼まれ、雪の残った山で伐採した木をソリで運び出す仕事をやっていました。父が喜んでくれたのは言うまでもありません。

一九日付の電報は大島村（当時）田麦にある旭郵便局からの発信。母の実家、竹平の従兄からのものでした。「合格オメデトウゴザイマス、フミエイ」という電文を発信した時間は、「受付コニ、五五分」とありますから、午後です。従兄はその日の新聞記事で私の合格を知り、電報を打ってくれたのだと思います。いまもお世話になっている従兄の一人ですが、こんな気配りまでしてくれたのかと胸が熱くなりました。

写真は三枚ありました。そのうち一番大きな写真は大学一年生のクラスの仲間の集合写真です。私がランニング姿で中央にいて、その後ろには木村がいる。清家は旗持ちか。おお、バレーボールを持ってるのは哲学青年だった丸山だ。そして、そのとなりは春吉と風岡。前列で紐を持っているのは確か金津だ。胸が震えました。

一人ひとりの顔をじつと見つめていると、次々といろんなことが浮かんできます。私の下宿によくやってきた丸山さんは恋愛論を語り、私に亀井勝一郎の本を読むようにとすすめたものです。後に亀田製菓の社長になった金津さんは、「おばあちゃんのぼたぼた焼き」を開発して一躍有名になりました。卒業後、まったく会う機会がなかった木村さんとは数年前、県庁でばったりと会いました。日本画家になった風岡さんは、尾神岳を描いてくれると約束していましたが、三年ほど前に亡くなってしまいました。みんな本当に懐かしい人ばかりです。

電報と写真はフェイスブックに載せて全国に紹介しました。すると、「日本電信電話公社という名前が懐かしい」とか「若い」とかの反応に混じって、元亀田製菓社長の金津さんが「これはすごい写真です」と喜びを伝えてくれました。おそらく、彼もこの写真で四十数年前まで旅をしてきたのでしょう。



はしご乗り。写真提供は平良木議員

団長の挨拶でも触れられていましたが、消防団の活動は、火災だけでなく、水害、地震、地滑り、行方不明者の捜索など広がってきています。災害が多くなっている中で、実践的な訓練強化が求められています。また今年7月に新潟県消防大会が上越市で行われます。団員のみならず、みなさんにとっては忙しい年になるかと思いますが、頑張ってください。

上越消防出初め式

文化会館で6日に行われた市の消防出初め式に参加してきました。ここ数年は吉川区の川谷冬祭り重なっていたために参加できず、久しぶりの参加となりました。

大島正春団長の挨拶、市長訓示では昨年の災害にふれながら消防団の役割の大きさと期待がのべられました。恒例となっている表彰、今回は県知事表彰、県消防協会表彰、上越市消防表彰が行われ、約800人（延べ人数。ダブリあり）の人たちに表彰状が渡されました。



【寺参り】「さーさ、どうぞ」「わりいね、じゃ、いただくか」そんな声が聞こえてきそう。逆光で誰かさっぱりわからないように見えるが、黒くても、この女性の背筋を伸ばした美しさ酒をついでもらっている男性の誠実さがよく写っている。

上越地域各消防署における空間放射線量測定結果（測定は毎日午前9時。数値はマイクロシーベルト。1時間当たりの測定量です。消防署によると、通常の範囲は1時間当たり0.016~0.16μSv（マイクロシーベルト）だということです。

	1月2日(水)	1月9日(水)
上越南消防署	0.036	0.030
上越北消防署	0.050	0.047
新井消防署	0.043	0.040
頸北消防署	0.050	0.063
頸南消防署	0.047	0.040
東頸消防署	0.040	0.050
高土分遣所	0.050	0.050
名立分遣所	0.040	0.050